

在宅医療ケア部会 会議録

(平成30年度 第1回)

1. 日 時 平成30年5月25日(火) 16時～18時

2. 場 所 飯塚市役所 2階203会議室

3. 出席者(順不同/敬称略)

【飯塚病院】大矢崇志、田中祥一郎、後藤裕美、毛利あすか

【嘉穂鞍手保健福祉環境事務所】秋好美奈子 小阪尚子

【飯塚市健幸スポーツ課保健センター係】瀬尾善忠、藤田奈緒 【嘉麻市役所健康課】藤井みはる

【桂川町健康福祉課健康推進係】樋口智絵 【アップルハート訪問看護】上野美津江

【多機能型児童発達支援事業所ひばり】廣瀬竜也

【児童発達支援センターこどもの森・多機能型児童発達支援事業所森の子】許斐孝史

【機能強化事業ピース】高橋智宏

【飯塚市】梶原あゆみ、渡邊里美 【嘉麻市】福田津紀正 【桂川町】川野寛明

【基幹相談支援センター】小出悦子・彦田純子

4. 概 要

1) 作業部会案についての検討

本部会で取り組む課題を「研修会企画」「ツール開発」「情報管理」「災害対策」に分け、各項目を作業部会化して取り組んでいく事とする。それぞれリーダーを決め、その他の部会員や地域の支援者の参加を募り検討を重ね、部会で報告・検討していくこととする。

「研修部門」・・・飯塚病院(大矢・毛利・後藤)、ピース(高橋)、基幹センター(小出)を中心に企画を進める。

「ツール開発部門」・・・飯塚病院(田中)、ひばり(廣瀬)、基幹センター(彦田)

※通所事業所の看護師/訪問看護師/相談支援専門員などの参加を募り、医療機関や地域で関わる支援機関間の連携がスムーズとなるような幾つかのツール(連絡票など)を作成する。

※次回は6月末に検討会を持つ予定。

「情報管理・災害対策部門」・・・行政(障がい福祉課・市町の保健師・県の保健師)が中心となり進めていく。

そのほか、訪問看護(上野)、森の子(許斐)

※次回の検討会は8月頃を予定。

2) 研修会企画案の検討

地域で支援に当たっている訪問看護師や児童の通所事業所、部会員らからの意見をもとに、飯塚病院が行っている小児等在宅医療推進事業で研修を企画して頂くことが決定。(在宅医療ケア部会との共催)。また、地域の事業所向きの内容となるよう検討を行っていく。希望する研修内容として、①基本的な医療ケアについての総論(特に在宅や通所先で注意すべきこと/子どもが成長することで変わっていくケア内容/緊急時の備え・対応など)、②姿勢保持の基本知識(ポジショニングの重要性や姿勢保持具の調整など)、③摂食・嚥下について、④重症児・医療ケア児の成長の療育(成長の支援)についてが研修内容として提案された。これらについてどなたに講師依頼するかについては今後検討していく。

※第一回目は7月5日に決定済み。医療ケアに関する総論部分と重症児特有の姿勢発達についての講義を予定。

地域の支援機関からは、喀痰吸引等研修（3号）が身近な場所で受けられることを希望しているとの声が多く、飯塚病院（麻生）で実施して頂くことが出来ないかを提案。飯塚病院田中先生より参考資料として①福岡県喀痰吸引等研修説明会資料、②都道府県における喀痰吸引等関係の登録等の事務についての資料をご提供いただいた。研修機関として登録できるかどうかについては今後、院内でも検討していくとのこと。

3) 年間スケジュールについて

- ・奇数月に在宅医療ケア部会を開催し、偶数月に各作業部会を開催する。作業部会での進捗については在宅医療ケア部会にて報告し、また意見を求めながら進める。
- ・年度内に一度、(昨年アンケート協力機関に集まっていたような)意見交換会を開催してはどうか。在宅医療ケア部会が1年を経過したのちに、その進捗を地域に報告し、また地域側から意見を頂く機会を持っていく。

4) その他

夜間支援についていまだ受け入れ先は医療機関や遠方の医療型短期入所のみ。引き続き地域では課題だと感じており日中一時の利用が出来ないかという質問が上がっていた。また実費契約による宿泊支援も現場から案としてきかれるが、リスク管理の面から考えると課題が大きい。今は日中の支援スキルの向上や関係機関同士の連携促進から取り組んでいる所だが、アンケート結果からも一番ニーズの高かった緊急時や家族レスパイト目的の夜間支援については今後も検討していく必要がある。

5) 次回日程

7月を予定。協議内容は各作業部会で検討したことの報告および協議。